

1、2024年度 事業所方針
<方針> 安心感と見通しのある中で、楽しみのある毎日を、人とのかかわりのなかで作る ①ありのままの姿に寄り添い、安心して自分を出せる、ほっとできる居場所づくりをめざす ・特に今年度は「集団」と「個別」を大切にした支援、活動をおこなう ・さらに一人ひとりの主体的で楽しい毎日のかんがえる ②一人ひとりの体調に留意し、医療との連携を図る ・服薬管理表の活用。 ・メンバー、職員が安心できる環境づくり ③「市民として生きている」実感を地域や社会、人とのつながりのなかでつくり、一人ひとりの豊かな人生を援助する実践をおこなう ・この地域を知る、好きになる取り組み ・つながりから学ぶ、広げる ④共に学び語りあえる、働きがいを実感できる職員集団づくり
2、利用者・職員状況 ※2月1日現在
・利用者：契約者数／42名（新規利用者1名（毎日利用） 平均年齢48歳（19～77歳） <平日：22名> ・ぽればれのみ… 14名 ・他事業所との併用… 8名 <土曜日：20名 ※他事業所との併用利用> ・職員：所長1名（第三かめおか作業所と兼任） 主任1名 支援員8名（正規：3名 非正規：5名（パート2名を含む）代替派遣1名 看護師1名（火・木：pm入浴時）
3、2024年度の実践内容と成果
・これまでは集団＝みんなを意識できることを大切にした活動を中心としてきたが、障害特性からか、集団のなかに自分の役割があること自体が不安定になるメンバーが増えてきた。また個別の対応を必要とするメンバーも増えてきたことから、今年度は「集団」で取り組む場面、「個別」を取り出し取り組む場面の2つを意識して活動をおこなってきた。少人数でそれぞれがしてみたいこと、落ち着けることを大切にした取り組みを、職員とたっぷり関わりおこなっている。大きな取り組み、例えば日帰り旅行については、そのこと自体が不安や混乱につながるため、一部のメンバーは参加しない、喫茶店に行くなど、一人ひとりがゆっくり過ごせる取り組みをおこなうこととした。 ・障害実態や高齢化により、服薬管理を必要とするメンバーが増えてきたことから、昨年度、高齢分野に学び、一人ひとりの服薬管理表を作成した。メンバー一人ひとりの状態を職員会議のなかで共有し、いつでも見返せるようファイルにまとめ、1F職員室と2Fぽればれの活動部屋の2ヶ所に置き、いつでも誰でもが見返せるようにしている。この取り組みは、また次年度見直すこととしている。 ・ぽればれは手厚い支援を必要とするメンバーが多く、職員の休憩時間をしっかり確保することが難しいこともある。今年度から実施している法人の「チャレンジ」取り組みの一つ、休憩時間はできるだけ保障できるよう、同じ建物内の第三かめおか作業所に応援をもらいながら取り組んでいる。具体的には第三から1便送迎応援をおこなうこととし、休憩時間の確保に努めている。またぽればれは職員態勢を見直し1名減でスタートをしたが、結果的に休憩時間や実務時間の確保が難しいことから、職員態勢を戻すことを検討している。

- ・職員の負担軽減のために、移動式リフトを活用し始めた。長く働き続けるためにも日ごろからトイレ支援、入浴支援のときなど、無理のないよう機器を活用していくことが大切だと実感している。ずいぶん操作にも慣れてきたが、体の大きな利用者には使いにくかったり、時間を要することも分かってきたが、今後も負担軽減のためにできることを考え続けていきたい。
- ・今年度も引き続き、次世代を意識した取り組みを継続している。それぞれが責任をもって担当を持つことで、役割を認識する、全体を俯瞰する、まわりと一緒に積み上げる経験の場としていきたい。
- ・日々現場の職員態勢が厳しいが、現場を離れ学びの機会をもつ、自分の事業所をふり返る機会をもうけてきた。学んだことは職員会議で報告をしてもらい、職員全体のものになるよう努めた。
- ・自ら好きなこと、やってみたいことを発する、見つけることが難しいメンバーについては個別に焦点を当て、多方面から様々な投げかけを行う、丁寧に見守ることを大切にしてきた。Aさんの複数年にわたっての変化を見ると、なにか主体的に過ごすものが見つかったわけではないが、ぼれぼれが安心できる場所、好きな場所となり、確実に落ち着いて過ごすことができるようになってきた。主体的な生活を見つけることだけでなく、ぼれぼれの集団のなかで安心して過ごせるようになることも実践の大切な成果であることを学んだ。

4、来年度の課題とそれに対する取り組むべき実践内容

- ・地域からの要望も高く、様々なメンバーが利用しているなかで、今年度前半はメンバーや職員の怪我、軽微ではあったが車両の接触事故などが多くあった。職員体制も厳しいなかで日々緊張感のある現状ではあるが、誰もがゆったり・のんびり楽しい毎日が送れるよう、必要な環境整備、ゆとりのある職員体制を目指していきたい。
- ・今年度、障害のある人の「生と性」について法人内部研修で取り上げ学んだ。これまで亀岡福祉会ではきちんと「性への対応」について取り上げて話し合う機会は持ててこなかったが、ちょうど今、青年期のメンバーへの対応、考え方について模索しているところなので、積極的に研修に参加し、先駆的に取り組んでおられる事業所等に学びながら、支援を考えていきたいと思っている。
- ・休憩時間がきちんと確保できない現状や忙しい場面の職員間での言動について、意見が出ることもあり、その都度対応してきた。すべてを改善することは難しいが、今後も誰もが思ったこと、感じたことを発言できる、みんなで話し合える、風通しのよい職員集団をめざしていきたい。